

第3号様式

意見公募(パブリックコメント)の結果

○件 名 勝浦市地球温暖化防止対策実行計画（区域施策編）（案）の策定について

○意見等の募集期間 令和6年12月20日 ～ 令和7年1月24日

○意見等の受付件数 5件

1 寄せられた意見等を内容により整理し、意見等の概要として掲載します。

(1) 勝浦市の地形、地質、水環境、動植物など、自然の特性を踏まえたやり方で進めるアプローチとして記述する必要についての意見

番号	提出のあった意見等の概要	市の考え方
1	温室効果ガス吸収源としての「ブルーカーボン」 環境省の【地球温暖化対策計画（案）】のp71～p72においてブルーカーボンの取り組みについての記述がありますが、勝浦は海と山に囲まれ、沿岸域や海洋生態系によって吸収・固定される二酸化炭素由来の炭素（ブルーカーボン）の存在を、勝浦市の地球温暖化における炭素吸収源としてももう少し詳しく記述する必要があるのでは。	ブルーカーボンは、本市の重要な二酸化炭素吸収源と考えていますが、本市におけるブルーカーボンの地理的な範囲や対象とする海藻海草の種類や能力などについて確認できることが少ないことから現在の記載としています。新たな知見が示された際は、今後の環境基本計画や本計画の改訂時に反映することを検討します。
2	谷津田の生態系活用による気候変動緩和策 勝浦の北部には、緑豊かな房総丘陵があり、丘陵と丘陵の間には帯状に平地があります。人里から離れた谷間ということから、谷津田と呼ばれ房総の原風景でもあります。 森林文化協会編【気候変動変動時代のインフラとしての里山】のp106～p107で耕作放棄水田の生態系機能が記述されております。 谷津田の耕作放棄水田は、稲作は停止していても、自然がもつ治水、水質浄化、生物多様性保全などの生態系機能を有しているので温室効果ガスを減らし、気候変動にブレーキをかける「気候変動緩和策」に注目しても良いのでは。	本計画は市内の二酸化炭素削減に焦点をおいていますが、現時点では耕作放棄地の二酸化炭素吸収源としての機能・試算の根拠となる資料が乏しいため、今回は記載していません。 耕作放棄水田の機能に注目することは重要と考えていますので、新たな知見や算定根拠等が示された際は、今後の環境基本計画や本計画の改訂時に反映することを検討します。

(2) 生態系を活用した気候変動対応策EbA (Ecosystem-based Adaptation) の考えの必要についての意見

番号	提出のあった意見等の概要	市の考え方
1	地球温暖化防止対策には、さまざまなアプローチがありますが、「生態系を活用した気候変動対応策」EbAも勝浦にとっては重要な施策です。 EbA導入には下記のような利点があります。 環境省自然環境局の【生態系を活用した気候変動適応策（EbA）】より抜粋 1 脱炭素などグローバルな目標の達成に貢献できる 気候変動適応の結果として、地域の生物多様性の保全を実現することで、SDGsや生物多様性条約の国際目標に貢献できる。 2 勝浦市民の満足、地域の魅力に寄与 市民の暮らしの質や、地域への満足度・愛着が生まれ、グリーンインフラの機運が高まることを、もう少し詳しく記述しても良いのでは。 3 低コストで導入できる 生態系を活用したアプローチは、大規模な人口構造物を導入するよりよりも初期コストが低い特徴がある。 4 観光価値の向上 気候変動への適応だけでなく、地域の価値・魅力を向上させる	本計画は、市内から排出される二酸化炭素の2050年までの実質ゼロを目指す計画であるため、二酸化炭素の削減につながる具体的な行動に焦点を絞っています。 生態系を活用した気候変動適応策（EbA）についても重要な視点と考えていますが、EbAについては、他の計画において検討します。

(3) 遊休農地や耕地（営農型太陽光発電）での太陽光発電についての意見

番号	提出のあった意見等の概要	市の考え方
1	以下の理由により疑問を感じており、再検討をお願いしたいです。 1 市内にはすでに、4ヶ所に大規模メガソーラーが設置済み 勝浦市内に合計約8.5MWのメガソーラーが設置されており、勝浦市としては再生可能エネルギーの増設に思っていると思われ、これ以上に太陽光発電を拡大する必要があるのでしょうか。 2 谷津田にある遊休農地は生態系活用による気候変動緩和策として活用すべき 谷津田の耕作放棄水田は、稲作は停止していても、自然がもつ治水、水質浄化、生物多様性保全などの生態系機能を有しているからです。 3 営農といっても太陽光発電に変わらないのでは。 4 景観上からも問題がある 勝浦は観光立地としても位置付けてもらいたいので、景観面でマイナスイメージが強いものは、観光価値の面からもマイナス影響が強い。	メガソーラーで発電された電気は、現在のところ市内の二酸化炭素削減に寄与しておらず、削減のためには既存の施設を生かした屋根置き型や、農業を続けながら発電できる営農型の太陽光発電設備が有効と考えています。 これらの太陽光発電は、既存の施設機能を維持したまま、新たな土地造成等を行わずに再生可能エネルギー量を増加させることができるため、自然環境の保全に資するものとなります。 また太陽光発電設備の設置については、景観や近隣の住民、市民の方々へ十分な説明と理解を得たうえで実施すべきものと考え、施策のなかで、再生可能エネルギーを積極的に推進するエリアと保全するエリアの設定を検討しています。 生態系活用による気候変動緩和策は重要と考えております。今後の環境基本計画や本計画の改訂時に反映することを検討します。

(4) 太陽光発電導入推進に伴い生じる疑問

番号	提出のあった意見等の概要	市の考え方
1	環境に配慮した太陽光発電利用に対して異論はないものの、太陽光発電パネルのメンテナンス費用や寿命を迎えたパネルの処理については、どのような考察があるのでしょうか。	再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法（2024年4月施行）では、10kW以上の太陽光発電でFIP認定を受けるためには事業計画に廃棄等費用を見込むことが必要（施工前の事業についても、廃棄費用の積立を遵守）とされています。また廃棄等費用の積立や、保守点検及び維持管理計画の確実な実施を担保するための制度も創設されています。 これらにより事業者の責任によって適切に保守点検、維持管理及び廃棄が行われる環境は整備されていると考えています。

(5) 情報発信や共通理解推進に伴い生じる疑問

番号	提出のあった意見等の概要	市の考え方
1	「環境に関する情報を広く一般に提供する」(p72)ことを求めている市民の声があると同時に、市政側も情報発信を課題として掲げており、今後に期待したいと思いました。とはいえ、地球温暖化や本計画内の対策は一口に語れるものではなく、情報を発信するだけで十分であるとは到底思えません。理解を深めるには住民参加型の取り組みが重要であると考えます。地域住民参加型の啓蒙的取り組みについて、何か計画はあるのでしょうか。 ちなみに、CO2削減や環境保護、再生可能エネルギーの利用などについて住民の関心をくすぐる取り組みが散見されます。以下にその一部を示します。 勝浦市でも、住民が楽しく参加でき尚且つ各々の学習につながる取り組みの実施を期待します。 ・福岡県地島では、水質環境改善のための実験が島ぐるみで行なわれた。 ・徳島県上勝町や鹿児島県大崎町では、分別・3Rの先進的な取り組みが地域ぐるみで行われている。 他	住民参加型の取り組みが重要であると考えている一方、住民参加型の取り組みを企画しても参加率が低い等の課題があるため、どのような企画であれば市民の皆様に参加いただけるかを検討したいと考えています。現在実施している標語・ポスターコンクール他にも、小中学校の夏休みの課題や、課外学習での脱炭素や再生可能エネルギーといったテーマの設定を通じて、子供から家庭へ波及するといった仕組みや他地域の事例を参考にする等、新たな視点も取り入れて進めたいと考えています。

※ 勝浦市情報公開条例第6条に規定する不開示情報、情報、政策等の策定に係わりのなもの及び賛否の結論のみを示したものについては、掲載を省略することがあります。

○ 問い合わせ先 勝浦市役所 生活環境課生活環境係